

河川砂防技術研究開発公募 流域計画・流域管理課題分野
平成30年度採択テーマ 中間評価結果

(中間評価2年目)

テーマ名および概要		提案者名	評価	中間評価コメント
テーマ	河川整備が進んだ河川流域における復興デザインの探究と水防災意識の再構築	大分大学 小林 祐司	a	・コメントなし
概要	水防災意識社会の再構築に取り組むためには、とりわけ、住民主体のソフト対策が重要であり、さらに被災を想定しながら、安全・安心な地域社会形成のための次なるまちづくりのビジョンを共有することも求められる。そこで、災害リスクの共有と実践、避難行動への展開、地域課題の把握・共有、関係主体とのネットワーク構築を進め、復興デザインの概念を組み込んだ水防災意識社会の再構築を実践的に取り組むことを目的とする。			
テーマ	要配慮者施設における水害タイムライン策定支援に関する研究	山口大学 榎原 弘之	a	・コメントなし
概要	2年目の本年度は、山口県内の計4施設において、水害を想定した避難訓練を実施して頂き、避難所要時間及び避難実際の際の課題等を分析した。次に、各施設が立地する流域の河川について、想定降雨、水位計の設置状況、市の避難勧告等発令の考え方などについて情報収集し、避難行動開始タイミングの判断基準を検討した。さらに、台風19号災害で福島県及び栃木県で避難を実施した高齢者福祉施設を対象に、ヒアリング調査を実施した。			
テーマ	菊池川流域における日本遺産を核としたかわまちづくり文化の再興	熊本大学 田中 尚人	a	・コメントなし
概要	本研究は、熊本県北部を流れる菊池川流域において、多様な研究者が、自治体、地域住民など様々なステークホルダーと協働し、日本遺産に認定された流域の様々な文化財を核として、安心・安全で魅力的な地域づくりに資するかわまちづくり文化について研究し、実践するアクションリサーチである。本研究の目的は、土木史研究を基盤として、流域の治水・利水・環境・防災・景観のあるべき姿を描き、公民連携に基づく実践哲学を創造することである。			

(氏名五十音順、敬称略)

評価の凡例

- a: 研究が順調に実施されており、引き続き研究を推進する。
- b: コメントに留意の上、引き続き研究を推進する。(コメントあり)
- c: 現在までの進捗状況に鑑み、研究目的の達成が困難であるため、研究を終了する。(コメントあり)